



栄研

# News Release

平成 21 年 12 月 15 日

各 位

会社名 栄研化学株式会社  
代表者名 代表執行役社長 寺本 哲也  
コード番号 4549 東証1部

**『Loopamp® H1 pdm 2009 インフルエンザウイルス検出試薬キット』  
および『Loopamp® A型 インフルエンザウイルス検出試薬キット』  
の製造販売承認を申請**

栄研化学株式会社（本社：東京都台東区、以下 栄研化学）は、独自の遺伝子増幅技術である LAMP 法を利用して開発を進めてまいりました（Pandemic(H1N1)2009）の検出試薬キット『Loopamp®H1 pdm 2009 インフルエンザウイルス検出試薬キット』および広範囲、高感度に A 型インフルエンザウイルスを検出する『Loopamp®A 型インフルエンザウイルス検出試薬キット』の製造販売承認申請を平成 21 年 12 月 15 日付で厚生労働省に行いましたのでお知らせいたします。

本試薬キットは、別売の『Loopamp®インフルエンザウイルス用抽出試薬』を用いて簡易にヒト由来検体（鼻腔拭い液、咽頭拭い液）中の RNA を抽出し、サンプル溶液とします。そのサンプル溶液で反応チューブ内の LAMP 乾燥試薬を溶解して、一定温度・迅速（35 分）にワンステップでウイルス遺伝子を増幅し、サンプル中のウイルス遺伝子の有無を検出することができます。増幅の有無はリアルタイム濁度測定装置または蛍光目視によって確認できます。

本試薬キットは、医療現場で容易に実施できる、簡易、迅速、高感度なインフルエンザウイルス（Pandemic(H1N1)2009、A 型）の診断補助ツールとして期待され、厚生労働省の承認が得られた後、速やかに発売していきたいと考えております。

栄研化学は、引き続き LAMP 法による事業を積極的に医療分野に展開するとともに畜産、農業、食品、環境などあらゆる分野への LAMP 法の普及と遺伝子検査市場の拡大を目指していきます。

以上

本件に関するお問い合わせ先

栄研化学株式会社 広報部

TEL:03(5846)3379 、 FAX:03(5846)3474 、 e-mail:koho@eiken.co.jp

ホームページ <http://www.eiken.co.jp>

## 【用語解説】

### **Pandemic(H1N1)2009**

2009年2月中旬、メキシコにおいてこれまでになかったインフルエンザ様疾患の広がりが確認され、呼吸器症状を示す人がメキシコ、アメリカを中心に増加した。4月12日に国際保健規則に基づいて、メキシコから肺炎による死亡者およびインフルエンザ様疾患の増加が世界保健機関（WHO）に報告され、次いで米国南カリフォルニアでこれまでにヒトから分離されたことが無いインフルエンザウイルスが発見され、メキシコの患者から分離されたウイルスと同一であることがわかった。これを受け、WHOは4月24日にこれを国際的に重要な公衆衛生上の事例であると宣言し、感染拡大に対応してパンデミック警報レベルを4月27日にフェーズ4、4月29日にフェーズ5、6月11日にフェーズ6（病原性は中等度）に引き上げた。

2009年11月1日現在、世界の199以上の国と地域で、6,000例以上の死亡を含む、実験室診断で確定されたパンデミックインフルエンザ H1N1 2009 の確定例が報告されているが、多くの国々が全数報告を中止しており、患者数、特に軽症例の数は実際よりも少なく報告されていると考えられる。

日本の感染症発生動向調査によるインフルエンザの報告は、第48週（11月23日から11月29日）の1週間に190,801例で、定点あたりの報告数（1週間の1医療機関当たりへの受診患者数）は39.63で47週（38.89）と比べて増加した。この報告に基づいた第48週（11月23日から11月29日）における患者数の推計は全国に約189万例であった。

今回の新型インフルエンザは数回名称変更されたが、現在 WHO ではウイルスは influenza A (H1N1)pdm（以下 AH1pdm）、疾病名は Pandemic (H1N1) 2009 と呼んでいる。